

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年3月8日(2012.3.8)

【公表番号】特表2011-510041(P2011-510041A)

【公表日】平成23年3月31日(2011.3.31)

【年通号数】公開・登録公報2011-013

【出願番号】特願2010-543486(P2010-543486)

【国際特許分類】

C 0 7 C 51/235 (2006.01)

C 0 7 C 59/153 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 51/235

C 0 7 C 59/153

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年1月20日(2012.1.20)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 9】

#### 比較例 1

$K_L a / Q$  が 1 0 未満である条件で反応を遂行すること以外、実施例 1 で説明した手順を繰り返す。

#### a) 反応器の総括物質移動容量係数 ( $K_L a$ ) の測定

二重ジャケット、ポンプ及びエジェクターを含む液相のための外部ループ、及びエジェクターに接続された気相のための外部ループを備えた、予め窒素でパージされた 2 0 L のエナメル鋼製の気液反応器中に、亜硫酸ナトリウム ( $\text{Na}_2\text{SO}_3$ ) 0. 8 モル/L 及び硫酸コバルト ( $\text{CoSO}_4$ )  $1. 10^{-6}$  モル/L を含有する水溶液 1 0 L を投入する。外部循環は、2 0 0 L / 時で開始し、そしてその反応器を、酸素で 2 バールに加圧する。圧力は酸素の流量を調整することによって 2 0 0 k P a (2 バール) に一定に維持する。反応器の総括物質移動容量係数を計算するために亜硫酸ナトリウムの消費量を測定する。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 5】

#### 実施例 2

実施例 1 に記載した反応器を  $K_L a$ 、 $932 \text{ h}^{-1}$ 、及び外部ループ中の流量 5 0 0 L / 時で使用する。この反応器中に、グリオキサルを 4 0 重量% 含有する水溶液 7 2 5 0 g、塩酸を 3 7 重量% 含有する水溶液 3 4 0 0 g、及び水 2 6 1 0 g を投入する。この混合物を二重ジャケットによって  $47^\circ\text{C}$  に加熱する。その後、6 8 重量% 硝酸を含有する水溶液 1 4 0 g を加える。1 0 分後、水 1 5 0 g 中の  $\text{NaNO}_2$  6 g の溶液を導入し、そして反応器を酸素で 4 0 0 k P a (4 バール) に加圧する。温度を  $48 \pm 1^\circ\text{C}$  に一定に維持することによって、二重ジャケット中で交換された冷却負荷は 2 2 5 0 W ( $Q = 4.5$  ワッ

ト／グリオキサール 1 モル) となる。必要に応じ酸素を 3 2 2 N L / 時 ( 1 時間毎の N o m o L i t r e ) 添加することによって、圧力は 4 0 0 k P a 超で一定に維持される。約 3 6 分かけて 2 1 5 N L ( N o r m o L i t r e ) の酸素を添加した後、二重ジャケット中で交換された熱負荷を一定に保つために約 1 時間で 5 5 ° C に達するように反応媒体を加熱する。添加された酸素の量が 5 2 5 N L ( N o r m o L i t r e ) に達すると、約 2 0 分で 6 5 ° C に達するように温度を高める。6 2 8 N L に達したとき酸素の添加を停止する。